

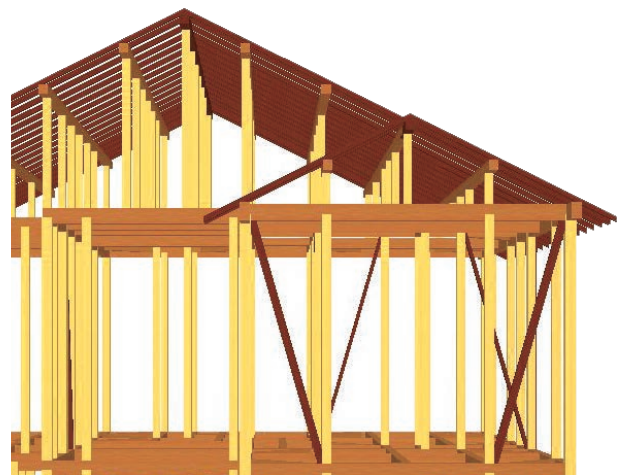
寸法安定性に優れた建材 構造用集成材



集成材は、引き板や小角材などを材料とし、反り、狂い、大節、割れ、腐り、含水率のばらつきを排除し、その繊維方向を平行にそろえ、厚さ、幅、および長さの方向に集成接着をした木材です。

構造基準は日本農林規格 (JAS) で定められており、強度・耐久性・耐火性・断熱性に優れた均一な性能を安定して得ることが出来ます。

木材本来の長所を生かしながら、美しく、丈夫な製品として、集成材が生まれました。





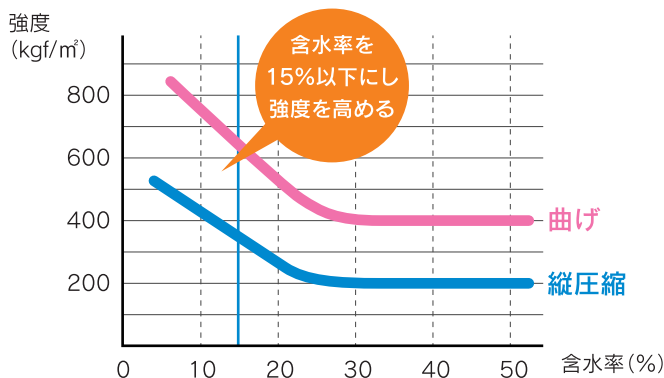
●JAS規格構造用集成材

日本でのいづくりだからこそ、
断熱・調湿にも威力を発揮。
木の良さはそのままに、
安定した品質をかなえる。

木材は熱伝導率が低く(鉄の200分の1、コンクリートの4分の1)断熱性に優れているので、夏の暑さはもちろん、冬の寒さにも最適です。また、湿度の高い梅雨時期には集成材が水分を吸収し、湿度をコントロール。
冬寒く、夏暑い。長い梅雨がある、そんな日本の気候風土に、最も適している材料といえましょう。さらには、断熱と調湿に優れ品質にばらつきの少ないJAS規格構造用集成材を採用しています。

含水率を15%以下に乾燥し、 変形・収縮を防ぐ

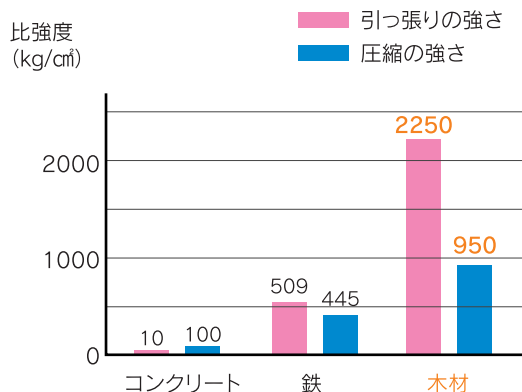
生き物である木材は50%~200%の水分を含んでいるため、乾燥が不十分だと強度低下、反り、割れが生じてしまいます。そのため集成材に使用する木材は天然乾燥に加え、乾燥装置によって、木の細胞膜中の水分まで放出させ、水分率を15%にまで落としました。反りや割れが起こりにくく、強度も上がります。



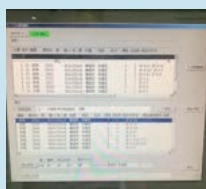
出典:財団法人日本木材備蓄機構、社団法人日本林業技術協会「木をいかにす」

鉄・コンクリートよりも強いのに、 建物は軽い。

木材、鉄、コンクリートの強度を比較すると引っ張られる力に関しては、木材は鉄の4倍以上、コンクリートの200倍の強さがあります。圧縮される力に対して、木材は鉄の2倍以上、コンクリートの9倍以上あります。建物重量は軽いのに、強い。粘り強さが木造住宅の特徴です。



出典:財団法人日本木材備蓄機構、社団法人日本林業技術協会「木をいかにす」



プレカットによる 品質の均一化

木材在来工法で重要な仕口・継ぎ手・ホゾなどの加工をCADで設計されたデータを基にコンピューター制御で機械加工しています。その精度は手加工と比較すると格段とアップし、品質のばらつきが減少して耐久性の高い高品質な構造を造ることができます。更に構造材(柱・梁・構造用の床板)は勿論のこと、間柱・筋交い・野地板等の一般的に羽柄材と呼ばれる部材まで機械加工することで、現場での作業性を向上させ工期の短縮と施工精度を高めています。

耐震性

制震性

省エネ性